

令和6年度京都大学教室系技術職員スキルアップ研修報告書

安全体感教育研修

1. はじめに

教室系技術職員に対して、職務に必要な能力・知識を習得させ、率先して業務に取り組む姿勢を養い、自覚と資質の向上を図ることを目的として研修を実施した。今回は職場で発生する可能性がある危険を実際に体験することによって、労働災害を未然に防ぐ能力の習得が目的である。実際に働いている現場では体験することが難しい安全体感教育研修を関電プラント株式会社にて受講した。

2. 日程

令和7年1月14日(火)と令和7年2月27日(木)の両日で研修内容は同じ。

日程表

10:00 集合・出発(京都大学百周年時計台記念館前道路と近隣道路)貸切バスで移動

12:00～13:00 到着、昼食休憩

13:00～15:30 安全体感教育研修を受講

- ・座学
- ・高所危険体感 4項目
- ・玉掛け危険体感 4項目
- ・電気危険体感 2項目
- ・回転体等危険体感 2項目

16:00 貸切バスで移動

18:00 頃 到着次第、解散(京都大学百周年時計台記念館前道路)

3. 参加者名簿

令和7年1月14日(火)

No.	所属	氏名	所属群	専門分野	職務内容
1	複合原子力科学研究所技術室	田中 良明	第5群	機械	核燃料物質管理
2	複合原子力科学研究所技術室	中森 輝	第5群	電気・電子回路	原子炉計装系保守管理
3	人間・環境学研究科	工藤 玲	第4群	生物	生物学実習補助
4	人間・環境学研究科	佐藤 瑞穂	第3群	地学	地球科学実験補助
5	人間・環境学研究科	高橋 輝雄	第2群	機械	研究・学生実験に必要な機器の製作・補修
6	医学研究科 附属総合解剖センター	長井 秀樹	第4群	生命・生命科学	系統解剖業務
7	医学研究科 附属総合解剖センター	木村 清二	第4群	生物・生命科学	系統解剖業務

8	医生物学研究所附属感染症モデル研究センター	宮地 均	第4群	実験動物	生殖工学
9	理学研究科技術室	廣瀬 昌憲	第2群	電気・機械	加速器の運転保守
10	理学研究科技術室	山本 隆司	第5群	放射線	RI 室管理
11	農学研究科技術室	奈良 伸	第4群	農業	花卉栽培
12	農学研究科技術室	岡本 憲茂	第4群	農学	植物生産管理
13	農学研究科技術室	野中 勝利	第4群	植物	果樹栽培
14	生態学研究センター	吉浪 理美	第4群	生態学	圃場管理
15	フィールド科学教育研究センター技術室	岸本 泰典	第4群	森林管理	森林調査・フィールド維持管理
16	フィールド科学教育研究センター技術室	柴田 泰征	第4群	森林管理	実習・研究補助
17	フィールド科学教育研究センター技術室	太田 健一	第4群	森林管理	森林調査・施設維持管理
18	フィールド科学教育研究センター技術室	勝山 智憲	第4群	森林管理	森林調査・土木・施設維持管理全般
19	エネルギー理工学研究所 附属エネルギー複合機構研究センター	才村 正幸	第4群	生化学	NMR の寒剤供給、遺伝子組み換え、タンパク質精製、放射線業務

令和7年2月27日(木)

No,	所属	氏名	所属群	専門分野	職務内容
1	複合原子力科学研究所技術室	小林 徳香	第5群	電気	臨界装置保守管理
2	複合原子力科学研究所技術室	竹下 智義	第5群	電気・電子・情報	放射線管理
3	医生物学研究所 附属感染症モデル研究センター	宮地 均	第4群	実験動物	生殖工学
4	理学研究科技術室	石川 学	第1群	低温物質	寒剤供給および分析機器管理
5	理学研究科技術室	木村 剛一	第1群	天体観測装置 運転・維持など	天文台装置維持 施設管理など
6	理学研究科技術室	井上 寛之	第2群	観測地球物理学	火山観測等
7	理学研究科技術室	吉川 慎	第2群	観測地球物理学	火山観測等

8	農学研究科技術室	埜 圭介	第3群	有機典型元素 化学・NMR・ ESR	大型測定機器維持 管理、学生実験
9	農学研究科技術室	吉岡 哲平	第3群	化学	学生実験
10	農学研究科技術室	北村 祥子	第4群	家畜管理	飼養管理
11	農学研究科技術室	南部 優子	第3群	化学	電子顕微鏡等
12	フィールド科学教育研究セン ター技術室	向 昌宏	第3群	林学	施設維持管理等
13	フィールド科学教育研究セン ター技術室	北川 陽一郎	第4群	森林管理	森林調査・ドロー ン・GIS
14	フィールド科学教育研究セン ター技術室	山中 公	第4群	森林管理	森林調査・水質調 査・資料館維持
15	フィールド科学教育研究セン ター技術室	細見 純嗣	第4群	森林管理	林道維持・歩道維 持・森林調査
16	フィールド科学教育研究セン ター技術室	藤井 弘明	第4群	森林管理	実習・研究補助
17	エネルギー理工学研究所 附属エネルギー複合機構研究 センター	坂本 欣三	第1群	機械	プラズマ実験用 ECRH 装置の 保守、運転
18	工学研究科技術室	平野 裕一	第2群	土木工学	実験講義、実験指 導、実験機器製作 等
19	工学研究科技術室	楠田 育成	第3群	環境工学	実験・分析・研究 支援

4. まとめ

技術職員にとって安全に業務を行うことは日頃から意識すべきことであるが、実際の業務中に危険を体験する事はできない。もし業務中に危険を体験すれば、それはすなわち労働災害となるであろう。業務で起こりうる事象をあらかじめ体験しそれを避けることを身に付けければ労働災害が発生しない職場が期待できる。今回、関電プラント株式会社での研修で身をもって体験したことは今後の参考になると感じた。体験型の研修は1回受けたら OK ではなく、何年かおきに繰り返し受講し、事故やケガのない現場を続けて行くことがとても重要である。厚生労働省の HP によれば令和5年に労働災害で亡くなった方は年間755人で休業4日以上労働災害は135,371人との報告がある。その中に京都大学の関係者が入ることがない様にこの研修が役に立つことを期待している。

以上



令和7年1月14日(火) 参加者



令和7年2月27日(木) 参加者